

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	小規模多機能ホームひらすまあらいべ児童発達支援事業所			
○保護者評価実施期間	令和7年10月28日 ～ 令和7年11月14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	令和7年10月28日 ～ 令和7年11月14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多くのスタッフが打ち合わせに参加している。	毎朝ミーティングで個別の支援内容について話し合いをしている。	その日によって支援内容も変化することがあるので、もっと具体的な打ち合わせを行い、統一したケアを提供する。
2	地域に密着している。	感謝祭やもちつき、避難訓練などの際には近所に声掛けしている。また、イベントのチラシを近所で商いしている方々に店舗に掲載してもらっている。	新しく出来た店や、子どもたちが安全に遊べる場所など新しい情報を取り入れ、近所の資源を開拓していく。
3	アレルギーや食事の形態など、個々の利用者に合わせたサービスの提供ができています。	毎回スタッフで確認し、特性に合った支援ができています。	もっと具体的な打ち合わせを行う。 食事形態やとろみの有無などわかりやすく台所に掲示する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	予想外の動きをする児童に対して、マンツーマンで対応しているが油断しやすい。	つい大丈夫だろうと思ってそばを離れ、距離をとって見守りと別の作業をしてしまう時がある。	いろいろなリスクに対し大丈夫だろうではなく、危ないかもしれないと、常に予測しながら関わる習慣を身につける。
2	発達段階に応じた対応が難しい。	児童は日々成長するのでケアプランの見直しが不十分。小さな変化の見落としがある。	家族や家族との連絡を密にして、連携しながら情報共有に努める。
3	事業所内から出て活動する事が少ない。	時間の制約があり、外出の機会を作りにくい。	ちょっとした散歩やドライブ、買物など外出の機会を増やす。